

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

3月9日にロサンゼルス港から発表された報告によると、ロサンゼルス港及びロングビーチ港沖合におけるコンテナ本船の滞船は46隻となっています。年始の1月9日の109隻をピークに滞船数は半減し改善の兆しを見せていますが、引き続き高い滞船数のため今後も注視が必要です。

ロサンゼルス港から出港する日本向けの直行便は、スケジュール調整のため2月から3月にかけて毎週の運航から隔週となっており、輸送能力が大幅に減少していることから、船腹の逼迫が続いています。加えて従前であれば、日本向けの直行便はコンテナ本船出航前の5日程度、輸出用コンテナ搬入のための受付期間が設けられていましたが、現在ではターミナルの混雑や港湾作業員の不足もあり、2日程度の受付期間となっています。各輸出業者は限られた期間内に工場から牧草を積載したコンテナを港に搬入するため準備を進めますが、搬入期間が限られ輸送の需要が集中するため、トラックを十分に確保できていない状況が続いています。この結果、港へのコンテナ搬入が間に合わずに次船以降の船腹に振り替えられるケース多くなっています。

アルファルファ、チモシーが多く輸出されているPNW航路においても経由地であるカナダのバンクーバー港沖合での滞船は続いています。シアトル港・タコマ港出航後2-3週間バンクーバー入港に向け沖合で滞船を強いられている状況で、船社によっては本船スケジュール調整のため3月の1ヵ月間、日本向け定期便の欠便を決定しています。この影響を受け日本ではアルファルファ、チモシー、ストローの在庫が逼迫した状況が続いています。

ビートパルプ

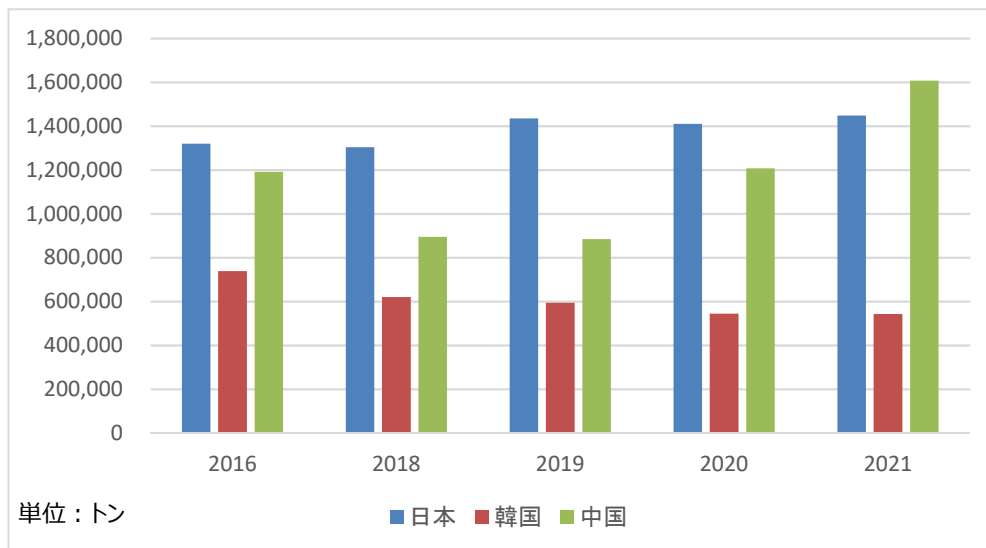
2月下旬に開始されたロシアによるウクライナへの侵攻はビートパルプにおいても影響が出るのが懸念されています。ロシアは世界最大のビートの生産国であり、生産されたビートパルプの多くがヨーロッパに輸出されています。世界各国でロシアに対する経済制裁が行なわれるなか、今後ロシア産ビートパルプの流通が滞る場合、ヨーロッパ諸国から米国産ビートパルプへの引き合いが強くなる可能性があるため、需要の変化には注視が必要です。

【米国】

産地では冬期における気温が低く、原料であるビートの保存に適した天候が続いています。このため保存期間におけるダメージによる原料のロスが少なくなっており、一部の工場では例年よりも1か月程度長い、6月前後まで生産が続く見込みです。

アルファルファ

USDA（米国農務省）から21年の米国産乾牧草の国別輸出量が発表されました。21年の輸出先上位3カ国は中国、日本、韓国となり、それぞれの輸出量は中国向けが160万トン、日本向けが144万トン、韓国向けが54万トンとなっています。中国向けの160万トンのうち97%にあたる156万トンをアルファルファが占め、その他4万トンが20年から輸出が解禁されたチモシーが主となっています。また21年は中国への輸出量は初めて日本を上回る年となりました。中国は経済発展に伴い食文化の西洋化が進んでおり、乳製品の消費も拡大傾向にあるなか直近では好調な乳価を維持しており、中国国内の生産現場においても良質な牧草を求める傾向が強くなっています。



(米国産乾牧草 国別輸出数量の推移 出典：USDA)

ワシントン州

各輸出業者は引き続き遅延する本船のスケジュールを合わせるため製造と港へのコンテナ搬入の対応に追われている状況です。

22年産カルフォルニア産が高値で推移していることから、ワシントン産に対する需要は高くなっていますが、21年産の余剰在庫は限られており、産地相場は堅調に推移しています。

カリフォルニア州

同州南部インペリアルバレーでは2月より22年産アルファルファの収穫が開始されています。1番刈は比較的冷涼な気候のなか、収穫作業が進み上級品中心の発生となっています。相場については前年同期比で大幅に上昇しています。引き続き米国内の乳

価格は好調で、穀物相場が上昇するなか米国内の酪農家は穀物の給与割合を減らしアルファアルファの給与割合を増加させているため、上級品に対し強い需要が続いています。加えて、中国も好調な乳価が続いており、産地では上級品の確保のため米国内需と中国の間で旺盛に買付が進められており、産地相場は日々上昇を続けています。

米国産チモシー

21年産は早魃の影響を受け生産量が少なかったことから、産地にある在庫は各グレード成約済みとなっているため、余剰在庫はない状況です。22年産の作付面積は21年産の相場が良好であったことから、昨年並みになることが予想されています。一方で冬季に発生したラニーニャ現象の影響でカスケード山脈の冠雪が例年よりも少ないことから、カスケード山脈からの雪解け水を灌漑用に引水しているチモシーの主産地のひとつであるエレンズバーグにおける生産への影響には注視が必要です。

スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは3月中旬から22年産スーダンの播種作業が開始される予定です。現在、各輸出業者においては、21年産の余剰在庫がなく新穀の収穫を待っている状況です。

早播きスーダンの競作物となるデュラム小麦の作付面積は、産地灌漑局の発表によると2月15日時点で37,341エーカー（昨年同期15,483エーカー）と昨年比で大幅に増加しています。背景としてはデュラム小麦市場で世界的にシェアの高いカナダで昨年早魃があったことからデュラム小麦の生産量が減少し、相場が好調に推移していることが挙げられます。デュラム小麦の作付けが増えると、上級品の発生がしやすい早播きスーダンの作付面積に影響が出るため今後もデュラム小麦の作付面積には注視が必要です。

クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは3月中旬ころから、22年産1番刈の収穫に向け圃場への散水作業が開始されます。今後順調に生育が進めば4月上旬頃から1番刈の収穫が開始される見込みです。肥料や燃料代など生産コストが上昇しているため、22年産の相場への影響が懸念されています。

ストロー類

2月11日にUSDA（米国農務省）からオレゴン州における22年産ライグラス、フェスキューの予想作付面積が発表されました。近年は需要の高まりからヘーゼルナッツといった果樹への転作が増加し、ストローの作付面積減少が続いていましたが、22年産のライグラス、フェスキューの総作付面積はほぼ前年並みの321,000エーカー（21年産は320,000エーカー）となっています。ペレニアル種のライグラスは

前年21年産よりも5,000エーカー増加となる62,000エーカーとなる見込みです。

	2018年	19年	20年	21年	22年
アニュアルライグラス	118,000	110,000	122,000	114,000	112,000
ペレニアルライグラス	77,000	75,000	60,000	57,000	62,000
フェスキュー	125,000	131,000	149,000	149,000	147,000

(オレゴン州におけるストローの作付面積推移 出典：USDA 単位：エーカー)

カナダ産チモシー

アルバータ州南部レスブリッジ地区、中部クレモナ地区ともに21年産は旱魃の影響で生産量が減少したこともあり、産地在庫は全て成約済みで余剰在庫はない状況です。21年産の相場が堅調であったことから生産者のチモシーに対する作付け意欲は強く、作付面積は例年並みから微増することが予想されています。

豪州産オーツハイ・豪州産ストロー

日本をはじめとする、各国からのオーツハイに対する引き合いは強く、輸出業者によっては製造スケジュールがすでに数か月先まで埋まっている状況です。加えて豪州発の船腹は引き続き逼迫しており、満足に船腹が確保できないため各顧客向けに月ごとに出荷本数制限を行う動きも見られます。

一方でこれまで落ち着いていた豪州国内の需要は、2月末に東豪州で記録的な豪雨があったため、地域によっては放牧草が使えない状況となり、代替として低級品オーツハイの引き合いが強くなっています。

豪州海運情勢について

年末年始と豪州産オーツハイの入船で不安定な状況が続いていましたが、徐々に状況は改善されつつあります。これまで豪州から日本向けの積替港のひとつである、東南アジアにおいてフィーダー船が減便されたことにより、積替地でコンテナが1-2か月滞留し、不安定な入船状況が続いていましたが、この状況を受け一部の船社で東南アジア経由の日本向けの船腹予約受付を一時的に停止したことで、現在では東南アジアでのコンテナ滞留は改善傾向にあります。一方でもうひとつの積替港である釜山港では東南アジア経由からシフトしてきた貨物が一時的に増加したため、混雑が最近になり顕在化しているため、引き続き豪州産オーツハイのスケジュールには注視が必要です。

各輸出業者は船社と4月-6月の海上運賃の交渉が開始されています。船社によっては逼迫する船腹と原油高を背景に1コンテナあたり\$1,000の値上げを示唆しており、4月以降も豪州産オーツハイの価格には注視が必要です。

以上